

## 肝機能(血液検査)⑤

ALP	
意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 広く全身に分布し、主に肝・胆道系疾患の指標として用いられるが、骨疾患等でも上昇する</li> <li>• アイソザイムを特定することで由来臓器の推定が可能</li> <li>• 日常的にはγ-GTPと併用する。ALPとγ-GTが揃って上昇するときはまず閉塞性黄疸を疑う</li> </ul>
基準値*	110～350 U/L (4-ニトロフェニルリン酸法)
異常値で疑う疾患	閉塞性黄疸、胆管癌、胆道炎、肝がん、肝疾患、悪性骨腫瘍、くる病など
服薬指導に活かせるポイントなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 妊娠後期に高値を示すことがある</li> <li>□ 小児期、思春期は骨新生が盛んなため、高値を示すことがある</li> <li>□ 抗けいれん薬で上昇することがある</li> <li>□ 脂肪分の多い食事により高値を示すことがある</li> </ul>

ALP : アルカリホスファターゼ